

仏教壮年会セミナー□1
 阿弥陀さまと私□2
 新・祖蹟点描□3
 青色青光□4
 第3連区青年布教使研修会□6
 熊野における浄土信仰□8
 第3連区仏教青年研修会□9
 2023年の慶讃法要概要□10
 つれもて聴こら□12



『紀伊国名所図会』に描かれた江戸時代後期の鷺森別院

2020年(令和2年)
 3月31日
 第123号

発行:「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 TEL(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、鷺森別院では3月15、16日の常例布教を中止、同20日の春季彼岸会を別院職員だけでお勤めした。ホームページなどで確認ください。

新型コロナウイルス
 感染予防

行事等中止措置について

教区でも3月中の研修会の中止措置や会議規模の縮小を行った。

壮年層に活躍の場を

鷺森別院で仏教壮年会セミナー



班ごとに仏教壮年会結成の体験談を聞き、各寺院の現状報告

寺院単位会の立ち上げに向け話し合う

第3連区仏教壮年会連盟が主催する「仏教壮年会セ

ミナー」が1月25日、和歌山教区が担当して鷺森別院

ら問題提起を行った。

高橋講師は、仏教壮年会

では、実際に仏教壮年会をつくって活動している寺院

で開かれ、教区内のご門徒、住職など60人が参加した。

会を立ち上げた際の体験談と現在の活動内容を紹介。これを受け、会の結成に向けての課題と対応策について意見を出し合った。

講師の高橋哲了師は、組

「まとも」で高橋講師は、このままでは人口減少で寺院活動も縮小。寺院活性化のために仏教壮年会設立に挑戦してほしいと話した。

が参加した。

の言葉の重要性を強調。壮

年層の活動現

が参加した。

の言葉の重要性を強調。壮

年層の活動現

が参加した。

の言葉の重要性を強調。壮

年層の活動現

が参加した。

の言葉の重要性を強調。壮

年層の活動現

が参加した。

の言葉の重要性を強調。壮

年層の活動現

が参加した。

の言葉の重要性を強調。壮

年層の活動現

鷺森幼稚園 106人が巣立つ



鷺森幼稚園では3月18日、鷺森別院本堂で卒園式が挙行された。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、時間を短縮しての開催。卒園証書を手にした卒園児106人は、希望を胸に思い出いっぱいの園舎を後にした。

阿弥陀さま

ハウツー仙事と私

今号は葬儀が済んでからの「中陰法要」についてお話しします。

中陰法要とは、

いわゆる「七日七日のお勤め」ともいわれるように、

(25) 中陰法要

生きものは、仏と成らないかぎり、六つの迷いの世界を生まれ変わり死に変わり経巡っていかねばならないという生命観です。

六つの迷いの世界とは、地獄(さま)まな責め苦を

故人の亡くなられた日を「初七日」、14日目に「二七日」というように7日ごとに法要を勤め、49日目の「七七日」に、満中陰法要(忌明け法要)を勤めるものです。

中陰とは、生命あるものが死んで次の生をうけるまでの状態(中有)を指し、その期間が49日間あるとの古代インドの考え方に由来します。

その大本にあるのは、「六道輪廻」という、あらゆる

亡き方の命の行き先を聞く

受け続ける世界)、餓鬼(飢えと渇きに苦しむ世界)、畜生(無智愚鈍で互いに殺し合う鳥獣虫魚などの世界)、阿修羅(闘争に明け暮れる世界)、人間、天(神々の世界)をいいます。

仏教諸宗のなかには、このような生命観に基づき、人がこの世の命終えてからも、中陰の期間は靈魂としてこの世をさまよっている

と考え、故人への追善供養の意味合いで法要をお勤めする宗派もあるようです。

しかし浄土真宗では、亡き方はこの世の縁尽きたとき、阿弥陀仏のお救いによって直ちに極楽浄土に往生して仏に成られた方と頂きますので、亡き方が靈魂としてさまようなどという考え方はいたしません。

そういう意味では、浄土



満中陰法要まではお仏壇の横に中陰壇を設ける

真宗では中陰法要をする必要がないようにも思えます。

お仏壇がない場合は、中陰壇にご本尊を置き、仮のお仏壇とする



【お仏壇のお飾り】前卓の打敷は白地、仏花は赤色を避けた生花を用います。

【中陰壇】お仏壇の左右どちらか

しかし、このいわゆる中陰の間は、残された方々にとても大切な期間です。親しい方を亡くした悲しみを縁として、わが身を見つめて仏さまのみ教えに心を開き、いろいろなことに気付けられる大切な時間です。

この間、7日ごとに法要のご縁に遇い、亡き方の命の行き先、そして自分自身の命の行き先に思いをはせるとき、もし阿弥陀さまのお救いがなかったら、まさに「中陰」という状態を経て、再び六道という迷いの世界に戻っていくに違いのない身だったと知らされ、いよいよ阿弥陀さまのお救いを有り難く頂くことができるとは思えないでしょうか。

に、法名・遺骨・遺影を安置する「中陰壇」を置きます。なお、遺骨や遺影は礼拝の対象ではありません。手を合わせるの、あくまでもお仏壇のご本尊・阿弥陀さまです。

ただし、お仏壇がない場合は、中陰壇を仮のお仏壇とします。このときは必ず中央の一番高い所にご本尊を安置し、お仏壇と同じように、その手前にろうそく立て・香炉・花瓶の三具足でお荘厳(お飾り)します。

満中陰法要後は中陰壇を片付け、法名を過去帳に記載します。※黒塗りや練り出しの位牌は用いられません。

【迷信】ご命日から満中陰法要までが三月にまたがるのは良くないとの迷信があります。これは四十九を「始終苦」、三月を「身付き」と読んで、「始終苦が身に付く」とする語呂合わせに端を発する迷信ですので、感わされないようにしましょう。

(松本教智・「御問の社会をめぐす運動」和歌山教区委員長)

新

祖蹟点描

25 正林寺㊦

を遂げられ、専修念仏の道に入られた。

その一節とは、「一心に専ら阿弥陀仏の名乗り(名号)である南無阿弥陀仏を称え、いかなるときも時間の長短を問わず称えて一瞬も捨てないこと、これをまさしく浄土に往生する行い(正定の業)となす。なぜなら、この行いこそ阿弥陀仏の願いに順うものだから

である」というものだった。法然聖人が震撼させられたのは、自らが浄土往生を求めてお念仏を称えているつもりが、それは実は、お念仏を称えさせ、浄土に往生させるという阿弥陀仏の本願(根本の願い)に発する行であった——ということだった。

本願念仏集』で、「称名念仏はこれかの仏の本願の行なり。ゆゑにこれを修すれば、かの仏の願に就いてかならず往生を得」(註釈版聖典七祖篇1194)と、表現されている。

「聖意測りがたし」とは、確かに阿弥陀仏の本願の本質を表す答えである。しかし、私たちとしては、やや突き放された感じを受けないわけではない。それを予期されてか、法然聖人は、あえてそのお心を勝劣・難易という二つの観点から解釈してみようと述べられ、

徳の結実であり、阿弥陀仏の内なるさとり功徳と、それが外に容貌・光明・説法・衆生利益などとなって現れ出た功徳のすべてが摂められているものであるから、最もすぐれているとおっしゃるのである。

「名号はこれ万徳の帰するところなり」

法然聖人(法然房源空聖人、1133～1212)

は、66歳になった1198年(建久9)の年初めて体調を崩された。このことを心配した九条兼実(1149～1207)は、法然聖人に教えを一書にまとめてほしいと懇願。これに応えてその年の3月に著されたのが『選択本願念仏集』(『選択集』)である。

思えば23年前、比叡山黒谷の青龍寺で習学に励んでいた法然聖人は、善導大師(613～681)の『観経疏』の一節によって回心



法然聖人、『選択集』を著す



本堂㊦には中央の法然聖人像の横に出家姿の九条兼実像㊧がある

いでもあった。この問いに対し、『選択本願念仏集』に自ら答えてこうおっしゃる。「聖意測りがたし、たやすく解することあたはず」(同1207)——阿弥陀仏のお心は推しはか

勝劣に関して次のようにおっしゃる。

「名号はこれ万徳の帰するところなり。しかればすなはち弥陀一仏のあらゆる四智・三身・十力・四無畏等の一切の内証の功徳、相好・光明・説法・利生等の一切の外用の功徳、みなことごとく阿弥陀仏の名号のなかに摂在せり。ゆゑに名号の功徳もつとも勝となす」(同)

つまり「南無阿弥陀仏」とは、阿弥陀仏のあらゆる

4年後の1202年(建仁2)1月28日、兼実は法然聖人を戒師として出家、法名を釋円証と賜った。

正林寺(浄土宗、京都市東山区渋谷通東大路東入3丁目上馬町553)の立つ場所には、かつて平清盛の嫡男・平重盛(1138～1179)の別邸があり、小松谷という地名から「小松殿」と呼ばれていた。

1185年(文治元)3月の平家滅亡後、その別邸は兼実の所有となり、兼実は法然聖人を招くための堂(小松谷御坊)を新たに設けた。これが正林寺のルーツだといふ。(本紙編集部)

青色青光

御正忌報恩講に参拝

仏教婦人会連盟が「若婦人研修旅行」

和歌山教区仏教婦人会連盟では1月13日、ご本山の御正忌報恩講にお参りする女性を対象に、お寺に足を運んでもらうきっかけにな



阿弥陀堂前で記念撮影

鷺森別院の植木すっきり

門徒総代らが奉仕活動



手際進む剪定作業

門徒総代会では1月19日、毎年恒例となっている鷺森別院境内の剪定奉仕に、遠くは日高郡由良町から、教区内寺院の門徒総代ら39人が参加した。

当日は、各自が剪定ばさみ、鎌、のこぎり、脚立などの用具を持参して、午前8時45分に別院1階ホールに集合。お勤めと山本勇会長(和歌山北組慶圓寺)のあいさつ

国宝の書院でお齋を頂く



ればと、3年前から「若い女性の集い」を鷺森別院で開催してきたが、今年は旅行を企画。

鷺森別院を午前7時20分に出発し、JR和歌山駅を

経由して本山へ。午前10時から御影堂でお勤めされる日中法要に参拝し、法要後は、国宝の書院でお齋の昼食。お土産を購入するため「十二十二」(京都市左京区)へ立ち寄り、帰路へ。参加者からは「開明社の職員によって配膳・接待されるお齋が、すごく新鮮に感じられた」「本山の報恩講に初めてお参りできてうれしかった」「また機会をつくって本山に参拝したい」「昨年までの研修会と比べて、参加しやすかった」などの意見・感想が寄せられた。

若手僧侶が寺院の将来考える

寺族青年連盟が研修会

寺族青年連盟では2月15日、午後7時から鷺森別院を会場に研修会を開催し、会員12人が参加した。

研修会は「ある寺院の行方」というテーマで、仲尾

鷺森テレホン法話 073-422-0243

こころの電話 (海南組西光寺)
TEL (073) 487-2430
ヤングこころの電話 (同上)
TEL (073) 487-0404
こころの電話 (御坊組専福寺)
TEL (0738) 44-0874

信博教務所長が講師を務めた。仲尾所長は、富山県のある寺院が、さまざまな理由によって護持が困難になったことから、寺院の解散も検討したが、結果として「親鸞会」に寺院建物を譲渡した事例を取り上げ、将来、寺院運営の中心を担う会員らへ、現代社会において寺院が抱える諸問題とその課題を分かりやすく解説。参加者らは自身が所属する寺院の将来像を見据え、決意を新たにしました。

2カ寺で紀南開教布教

紀南組と和歌山教区布教団が協力

和歌山教区布教団では1月18日、過疎地域での法座開催を支援するため紀南開教布教を行った。

午前10時30分から紀南組妙福寺(東牟婁郡串本町)、午後1時30分からは同組専光寺(新宮市新宮)で法座



講師の藤俊乗師

を開催。妙福寺では18人、専光寺では25人の僧侶・門徒が聴聞した。

当初は昨年10月12日に開催を予定していたが、台風19号の影響で延期となっていたもの。

妙福寺での法座



法座はいずれもお勤めの後、仲尾信博和歌山教区布教団長があいさつ。続いて藤俊乗師(和歌山教区布教団副団長、紀南組善福寺住職)の法話を聴いた。

青色青光

野球を通して交流深める

和歌山教区が担当し近畿大会開催

和歌山教区寺族青年連盟では3月2日、セレッソスポーツパーク舞洲(大阪市此花区)で、第23回近畿地区寺族青年軟式野球大会を開催した。



近畿各教区から5チームが参加

加。午前10時30分から開会式を行った後、トーナメント戦を行った。その結果、京都ベースボールクラブ48(京都教区)が3連勝して優勝。和歌山教区の寺族青年野球チーム「SAGINOMORI」は残念ながら2戦2敗で、最下位という結果に終わった。

閉会式では、結果発表に続き、小川眞史委員長から賞品が手渡された。この大会は、近畿教区内で持ち回りで開催されており、次回は滋賀教区が担当する。

◆野球部員募集

チームSAGINOMORIでは、軟式野球部員を募集しています。経験者・未経験者を問わず歓迎します。スポーツを通して交流を深めましょう。詳細は和歌山教区教務所まで。

年よりご門徒の参拝者も増加し、今後も継続して周知を行い、お寺での法座が定着すれば、と任職談。



専光寺での法座

妙福寺では2年振りの開催。専光寺は、紀南組の住職や門信徒のバックアップを受け、昨年に引き続き2年連続の開催となった。昨

犯罪を選択肢にしない社会へ

教誨師・篤志面接委員が和歌山で研修

2月5日から1泊2日の日程で、和歌山教区が担当し、本派矯正教化連盟大阪矯正管区支部連絡協議会一泊研修会が開催され、第3連区内の教誨師、篤志面接委員ら24人が参加した。

初日は、鷺森別院本堂で開会式を行い、和歌山刑務所(和歌山市加納)を視察。同刑務所長の望月英也さんが、施設内だけで受信できるラジオ放送などによる受刑者の更生に向けた独自の

取り組みや施設の説明を行った。



プロジェクターを使用した講義

2日目は「犯罪を選択肢にしない社会へ」をテーマに、濱井浩一教授(龍谷大学法学部、同大学矯正・保護総合センター長)が、鷺森別院ホールで講義。

濱井教授は、犯罪の背景には、貧困や差別、社会的孤立が存在するが、日本の刑事司法は、その犯罪の違法行為に対してのみ罪責を問う、と指摘。この仕組みでは何も解決せず、再犯は防止できない。犯罪の背景にある社会の中の生きづらさの解消、克服が課題だと語った。

同研修会は毎年、連区内で持ち回り開催されている。

浄土信仰の多様さに驚嘆

第3連区青年布教使研修会で紀州巡る

第3連区青年布教使研修会が2月17、18両日、「『念仏者の生き方』と親教のお心を体して」紀州における浄土信仰を通して」をテーマに和歌山教区が担当して開かれ、6教区(滋賀・京都・奈良・大阪・和歌山・兵庫)から34人の若手布教使らが参加した。1日目は、鷺森別院で「布教と差別―差別語とは―」の講義。そのあとはバスに乗り込み和歌浦を見学し、海南市の浄國寺と了賢寺を参拝。了賢寺では「紀州における浄土真宗の歴史」を学んだ。2日目は車中講義「熊野における浄土信仰について」を聴きながら、那智勝浦町の補陀洛山寺(天台宗)へ。途中、熊野古道を歩いて青岸渡寺(同宗)、那智大社を回り、最後は再びバスで田辺市の本宮大社へ。参加者らは紀州の歴史と文化を感じながら貴重な体験を満喫、意義深い2日間となった。

1日目は同朋研修と 浄國寺・了賢寺参拝

和歌山教区の青年布教使らが、1年以上前から企画を温めてきた今回の研修。1日目は、鷺森別院本堂

で午後1時から開会式を行い、続いて1階ホールで同朋研修を行った。講師の伯水永雄師は「正

しい言葉を使っても差別語となる場合もある。特に布教の際は、言葉が、その時、その場所

でどういう意味を持つのかを考えなければならぬ。差別語と向き合うとは自己と向き合うこと」と話した。参加者は、自分自身が抱える差別意識に目を向ける



「布教と差別」について研さんを深める参加者



「紀州における浄土真宗の歴史」学ぶ(了賢寺)



浄國寺で戦国期からの沿革を聞く

2日目は4寺社回り 熊野古道ウォークも

この大切さをあらためて学んだ。

2日目は午前8時にホテルを出発。補陀洛山寺までの車中では、大原誠師(行信教区講師)の講義(次面に要旨掲載)を聴いた。

補陀洛山寺は、観音菩薩の浄土である南方の補陀落(洛)山を指して船出した捨身行の一つ、補陀落渡海で知られている。

境内には再現された渡海船が展示され、この日は特別に、秘仏の千手観音立像も開帳していただいた。

バスに乗り、大門坂から語り部の方の先導で、熊野古道ウォークへ出発。古道に伝わる逸話を聞きながら、約2時間で那智大滝に到着。大門坂の手前まで戻ってねばけ堂で昼食を取り、本宮大社へ。『親鸞伝説』に描かれた平太郎の熊野参詣の場所に感銘を受けながら帰路へ。

紀州における浄土信仰の多様なあり方に触れ、宗教と信仰の原点について考えさせられる研修となった。



飛瀧神社から那智大滝を望む



車中講義を聴きながら補陀洛山寺へ



補陀洛山寺には再現された補陀落渡海船が



語り部の先導で「蟻の熊野参り」と言われるほど多くの人がたどった熊野古道を歩く



青岸渡寺



那智大社



本宮大社

次面に大原師の車中講義要旨

熊野における浄土信仰

行信教校講師 大原 誠



白河院から後鳥羽院の時
代まで、年に1回は大掛か
りな熊野詣が行われ、皇族
や貴族が約ひと月もかけ、
多くの人々を引き連れて
熊野にお参りしました。熊
野詣をすることは「死と再
生」を意味し、現在も熊野
は「よみがえりの地」とし
ての信仰を集めています。

■平太郎の熊野詣 上皇
や貴族だけでなく、関東の
武士もはるばる熊野詣をし
ました。『御伝抄』下巻五
段に語られる「平太郎の熊
野詣」のエピソードもその
一つです。

親鸞聖人が京都へ帰られ
てからのこと、関東時代の
いかに、親鸞聖人にお伺いを
立てようとしたのです。

親鸞聖人はこう答えられ
ます。本宮の熊野権現の本
地(もとの姿)は阿弥陀如
来であり、神の姿となって
おられるのは、ただ縁ある
人々を救いたいとお心に
よるものです。ましてや社
廟に詣でるのは自分で発心
したことではありません。
殊更に賢ぶってうわべを取
り繕うのではなく、ただ本
地である阿弥陀仏の誓願に
おまかせ下さい。神を軽ん
ずることにはなりません。

平太郎は親鸞聖人の仰せ
の通り熊野に参りました。

もこの話が出てきます。
下河辺六郎という武士が、
將軍源頼朝の狩に同行した
際、鹿にとどめを刺す役を
命じられますが、失敗して
しまいます。これを恥じた
下河辺六郎は姿を消し、出
家します。法華經の行を重
ねても心のわだかまりは解
けず、観音菩薩の浄土に往
生することによって苦しみ
から解かれたいと考えます。
下河辺六郎は補陀落山を
目指して船旅に出ます。船
には屋形という居住スペー
スがあり、中に入ると釘を
打ち付けて密閉してしま
います。内部は灯芯の明かり
だけで、持ち物といえは30
日間分の食料と油のみ。

自然の力感じながら培った宗教心

■補陀落渡海 法華經な

どに説かれる観音菩薩の浄
土は補陀落山といい、はる
か南の海上にあると考えら
れていました。

その補陀落山へ船で向か
おうとするのが「補陀落渡
海」で、『吾妻鏡』という
鎌倉幕府が編纂した史書に

いかに、親鸞聖人にお伺いを
立てようとしたのです。

食料が尽きてしまえば、
船の中の人間は現実には死
んでしまう。死ぬのが分
かっていながら、補陀落山
を目指すという人間の心理
に私は心引かれます。

このような浄土信仰のス
タイルもあったということ
は、熊野に來ないと実感で
きないものだと思います。

(文責編集部)

熊野と呼ばれる地域は、
近世の「牟婁郡」一帯を指
し、現在の和歌山県の南部
だけでなく、三重県の一部
を大きく含んでいます。地
形の面では、奈良県の山岳
地帯とつながっているとい
う印象を受けます。

伊弉冉尊が葬られたのが
熊野の有馬村(三重県熊野
市)だとの神話もあります

で修行することによって靈
的な力を獲得しようとする
人々の登場によってです。
その代表的宗教家・役行者
(役小角)は、7世紀から
8世紀にかけての人ですが、
大和や紀伊の山々を飛ぶよ
うに移動したといわれ、そ

門弟の一人である平太郎が
常陸国から聖人を訪ねてき
ます。武士という立場上、
領土の代わりに熊野詣をし
なければならなくなり、こ
のことが阿弥陀仏一仏をよ
りどころとする念仏者とし
て教えることにならな

いかに、親鸞聖人にお伺いを
立てようとしたのです。

第3ブロック
仏教青年連盟

コミュニケーションの難しさと楽しさを学ぶ

白浜で5教区22人が研修

第3ブロック仏教青年連盟の連絡協議会と研修会・交流会が2月8、9両日、和歌山教区が担当して西牟婁郡白浜町で開催され、京都を除く近畿5教区(滋賀・奈良・大阪・和歌山・兵庫)から22人が参加した。

8日は、白浜古賀の井リゾート&スパで連絡協議会と研修会が、9日は、アドベンチャーワールドで参加者同士の交流が図られた。連絡協議会では、近畿の



講師の辻本真一朗師

とを目的に行われた。辻本師は、人が他者に何かを伝えようとする際、言葉の内容だけではなく、声のトーンや指差し、うなず

きなどの体を用いて行われるボディランゲージ(非言語コミュニケーション)が意思伝達に影響していることを述べた。

その中でも、日常会話では特に非言語コミュニケーションが重視されやすいとのことだった。そして、発信者が伝えたいと思っているメッセージの内容と、受信者によるメッセージの解釈に相違があると、両者にトラブルが起きやすくなることが示された。

特にLINE(ライン)などの文字だけの情報の場合、書かれていることだけが、数字の1から100ま



1泊2日の研修で交流を深めた参加者

で相手の心情を推し量ってしまつたため、往々にして情報の読み違いが起き、問題に発展する例が挙げられた。その上で、実際にコミュニケーションを意識する体験として、参加者らは5、6人ごとの班に分かれてボードゲームを行った。

「The Mind」というゲームでは、各人に他の参加者には見えないよう、数字の1から100ま

だが書かれたカードが1枚ずつランダムに配られる。それらのカードを、全員が協力しながら数字の小さい順に場に出していければ成功というのだが、その際に言葉を使うことは禁止され、自分のカードの数字と他の参加者の様子を観察しながら自分がいつカードを出すかを決めなければならぬというゲームである。

初めのうちは失敗することが多かったが、後半になると、他の参加者の発言や持っているカードの数字がどれくらいかを何となく読み取れるようになり、成功する回数が増えていった。

次の「Inspector」というゲームでは、参加者のうち一人が進行役の「マスター」となり、それ以外は「コモン」となる。しかし、コモンの中に一人だけ「インサイダー」が交じっているというのがミソで、誰がインサイダーであるかは、そのインサイダー自身しか知らない。

この状態で、前半はマスターが持っているキーワード(例えば火力発電所)をコモンらが当てるゲーム。コモンらは、マスターに質問しながらその言葉を探るが、実は、コモンの中の一人(インサイダー)も答えを知っており、正体を悟られないようにしながら、答えに導くように振る舞う。

後半は、前半でのやり取りを思い出しながら、インサイダーが誰だったかを当てるゲーム。回を重ねるごとに、他の参加者の発言や様子を観察しながらインサイダーの意図を推測することで、誰がそうかを当てられるようになった。

参加者らは、コミュニケーションの難しさと楽しさを改めて感じさせられた様子だった。また、ゲームを始めたときは会話もぎこちない様子だったが、一緒にゲームに興じることによって自然と打ち解け合い、仲間づくりを大切に行っている仏教青年連盟らしく、参加者同士が良い関係を築けているようだった。

3年後に

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要

3年後の2023年(令和5年)春にお迎えする親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要は、「親鸞聖人の説き示してくださった浄土真宗の教えに出遇うことがなければ、今の私はあり得なかったという聖人への感謝と、その教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人のご誕生を祝い、立教開宗(浄土真宗を開いてくださったこと)に感謝する」法要です。

50年に一度の盛事の概要をお伝えし、1973年の慶讃法要を振り返ります。

法要期日

2023年(令和5年)年に5期30日間	
第1期	3月29日(水) 4月3日(月)
第2期	4月10日(月) 4月15日(土)
第3期	4月24日(月) 4月29日(土)
第4期	5月6日(土) 5月11日(木)
第5期	5月16日(火) 5月21日(日)

教務所に法要事務所を設置

昨年8月には、「法要趣意書」と「法要趣意書の付帯事項」(いずれも本願寺ホームページに掲載)が作

られ、同年11月1日には「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」の法要期日を、3月から5月の5期30日間とお示しになりました。

同日、発布された宗告で、法要期間は同年3月29日から5月21日まで、5期30日間と告知。また同時に、御影堂前には法要を知らせる高札が立てられた。

同日、発布された宗告で、法要期間は同年3月29日から5月21日まで、5期30日間と告知。また同時に、御影堂前には法要を知らせる高札が立てられた。

同日、発布された宗告で、法要期間は同年3月29日から5月21日まで、5期30日間と告知。また同時に、御影堂前には法要を知らせる高札が立てられた。

同日、発布された宗告で、法要期間は同年3月29日から5月21日まで、5期30日間と告知。また同時に、御影堂前には法要を知らせる高札が立てられた。

同日、発布された宗告で、法要期間は同年3月29日から5月21日まで、5期30日間と告知。また同時に、御影堂前には法要を知らせる高札が立てられた。

同日、発布された宗告で、法要期間は同年3月29日から5月21日まで、5期30日間と告知。また同時に、御影堂前には法要を知らせる高札が立てられた。

同日、発布された宗告で、法要期間は同年3月29日から5月21日まで、5期30日間と告知。また同時に、御影堂前には法要を知らせる高札が立てられた。

同日、発布された宗告で、法要期間は同年3月29日から5月21日まで、5期30日間と告知。また同時に、御影堂前には法要を知らせる高札が立てられた。

同日、発布された宗告で、法要期間は同年3月29日から5月21日まで、5期30日間と告知。また同時に、御影堂前には法要を知らせる高札が立てられた。

同日、発布された宗告で、法要期間は同年3月29日から5月21日まで、5期30日間と告知。また同時に、御影堂前には法要を知らせる高札が立てられた。

同日、発布された宗告で、法要期間は同年3月29日から5月21日まで、5期30日間と告知。また同時に、御影堂前には法要を知らせる高札が立てられた。

写真で振り返る

親鸞聖人御誕生800年
立教開宗750年 慶讃法要

親鸞聖人御誕生800年・立教開宗750年慶讃法要は、1973(昭和48)年、勝如門主のもと、盛大に勤修された。

法要は、前期3月17日から26日、中期4月9日から15日、後期5月19日から21日の3期20日間。期間中には、全国各地から総勢27万6320人が西本願寺に参拝した。和歌山教区からは、計3885人が参拝。

法要期間中、さまざまな

堀川通を進むパレード。真宗大谷派の大谷高校ブラスバンド部員も参加



記念行事や大会が催された。パレードは、法要前期の初日及び最終日、中期の初日及び最終日の計4回行われた。左上写真は中期の初日、4月9日に行われたもの。この日は110人で構成され、慶讃旗(ボイスカウト)を先頭に、プラカード(ガールスカウト)、バトンガール(光華女子高等学校バトン部)、ブラスバンド(大谷高等学校・光華女子高等学校ブラスバンド部員)、幼稚園児(円山幼稚園園児)、エスコートガール、ブラスバンドと続いた。

一行は堀川通(本願寺会館前)から北小路通、油小路通、新花屋町通を回り、堀川通へ。そして、御影堂前を通り、阿弥陀堂縁、渡り廊下を進み、御影堂内に入った。堂内での「降誕会の歌」などのブラスバンドの演奏は、親鸞聖人の徳を讃える喜びに満ち、参拝者の万雷の拍手が御堂を揺さぶったという。

(写真は西本願寺提供)

郷流十方

4~6月の催し

本山

4月13~15日 立教開宗記念法要(春の法要)
5月15日 夏御文章御開軸式
5月20~21日 宗祖降誕会
6月1日 坊守式研修
6月2日 坊守式
6月5~8日 大谷本廟納骨・永代経総追悼法要
6月18日 住職補任研修
6月19日 住職補任式
6月23日 住職、開教使退任式

和歌山教区

4月8日 布教団連続法座
①(鷺森別院)
4月10日 勤式講習会①
(鷺森別院)
4月21日 ビハーラサロン
(鷺森別院)

教区内各組

和歌山組

4月28日 教区少年連盟総会・研修会(鷺森別院)
5月7日 教区仏教婦人会連盟清掃奉仕(鷺森別院)
5月8日 勤式講習会②(鷺森別院)
5月13日 仏教壮年会連盟集い(鷺森別院)
5月14日 寺族女性会集い(鷺森別院)
5月15日 責任役員辞令・門徒総代登録証伝達式(鷺森別院)、門徒総代会集い(鷺森別院)
5月16日 仏教婦人会連盟集い(鷺森別院)
5月17日 門徒推進員連絡協議会集い(鷺森別院)
5月26~27日 寺族女性会研修旅行(白川郷・立山)
6月4日 ビハーラ和歌山公開講座(鷺森別院)
6月12日 勤式講習会③(鷺森別院)
6月30日 ビハーラサロン(鷺森別院)、布教団連続法座(鷺森別院)

和歌山西組

4月5日 組内会(光源寺)
5月10日 組内会(光源寺)
5月30日 仏教婦人会総会(覚円寺)
5月上旬 寺族婦人会例会(正立寺)
6月7日 組内会(安樂寺)
期日未定 門徒総代会委員
会・総会(光源寺)
期日未定 仏教壮年会総会(淨福寺)

和歌山北組

4月未定 組内会(未定)
5月未定 仏教婦人会総会(未定)
6月未定 門徒総代会総会(未定)

海南組

6月6日 組会(未定)

海草組

6月6日 組内会(報徳寺)
6月12日 門徒総代会委員
会(西方寺)

伊那組

5月下旬 小委員会(未定)
6月初旬 組内会(光明寺)
6月末 門徒総代会総会(未定)

有賀組

4月12日 仏教婦人会総会・研修会(願成寺)
5月17日 仏教壮年会総会・研修会(西方寺)

有田南組

5月未定 組会(未定)
有田北組
4月未定 協議会(未定)
5月未定 組会(未定)

日高組

4月25日 門徒総代会総会(未定)
紀南組
5月未定 門徒総代会総会(未定)
6月6日 仏教婦人会50周年記念総会(ガーデンホテルハナヨ)

日高別院の催し

■降誕会・花まつり・湯川忌法要
5月10日、午後1時から本堂でお勤め。その後、御坊幼稚園卒園児(小学1年生)のマーチングドリルを先頭に、同幼稚園園児らが、

得度

2月
橋本崇秀(御坊組善妙寺)
教師
1月
平井実(御坊組西教寺)

鷺森別院の催し

二尊会

5月13~16日の4日間勤務。毎座、午後1時30分からお勤め、続いて3時30分まで法話を聴聞。布教使は13日~14日が小川眞理子師(岐阜市柳津町・等光寺)、15~16日が嶋津弘隆師(福井市和田仲・弘誓寺)。

宗祖降誕会・初参式

5月17日、午後1時30分からお勤め。その後、法話を聴聞。この日は午前11時から本堂で初参式(お子さまの初参り)が行われる。

敬弔

北本登紀子(和歌山北組浄源寺前坊守・衆徒) 1月14日
(生前の活躍で尽力に感謝申し上げ、謹んで敬弔の意を表します)

総永代経

6月14日、午後1時30分から本堂でお勤し、引き続き午後3時まで、廣田聡美師(和歌山市磯ノ浦・安樂寺)と板原充弘師(有田郡広川町・円光寺)の法話を聴聞する。

常例法座

4月15、16日、若林唯人師(大阪市東淀川区・光照寺)。6月16日、天野真隆師(揖保郡太子町・善導寺)。毎座、午後1時30分から。(本願寺鷺森別院 和歌山市鷺ノ森1番地 電話073-422-4677)

常例法座

4月20日、午後1時30分から本堂で正信偈をお勤め、引き続き、午後3時まで若林唯人師(大阪市東淀川区・光照寺)の法話を聴聞する。(本願寺日高別院 御坊市御坊100 電話0738-2210518)

※掲載されている行事は延期または中止の可能性あります

つれもて 聴こら

「つつしんで真仏土を案ずれば、仏はすなはちこれ不可思議光如来なり、土はまたこれ無量光明土なり」(註釈版聖典337頁)

幼い頃、人は死んだらどうなるのだろう、死んだ人は何をしているのだろうと思っただけがありました。

しかし考えても答えが出ませんので、考えなくなっていました。きつと私達は、このように考えないことに慣れていくのではないのでしょうか。そして、大切

ご法事やお葬式に出向く

と「あの人、向こうで元気にやっているでしょうか」と質問を受けることがあります。私はお坊さんになっ

て間もない頃、この質問を受けるのが一番苦手でした。

利國敦之

しかしこれこそ私達が抱えている根本的な問いではないでしょうか。

その問いに対し、私達はお浄土へ行き生まれていく

とは、量りなき光の世界という意味ですから、空間的に無量、時間的に無量であって、「いつでもどこでも」と味わえます。

つまり、私がいる今ここも、お浄土の光明の中に抱かれているということになります。そして今ここにお浄土の光明が届いていると

ているということです。

毎月、ある女性のお宅にお参りに伺います。その方の息子さんが亡くなられたことを縁としてお参りが始まりました。今でもお彼岸やお盆に息子さんの友人が手を合わせて来てくれるそうです。だから、その期間中はあまり出掛けられない



いのよとおっしゃいます。

ある時、友人の一人がお参りに来てくれたそうです。お仏壇の前でしばらく手を合わせた後、後ろにいるお母さんに振り向いてこう言われたそうです。「おば

ちゃん。俺、今まで仏壇に手を合わせたことなんてなかったけど、今こうやって手を合わせてるのは、あいつがいたからなんやろうな

あ。あいつが今でも俺に手を合わせるということ、教えてくれるんやで」。

そんな言葉をかけてもらったと話すお母さんの顔は、寂しそうな、悲しそうな、でもどこかほんの少しだけほっとしたような、なんだか複雑な顔をされていました。

よく人は死んだらしまいと言いますが、本当にそうであれば、その友人は決して手を合わせることはなかっただろうと感じます。

今まさにその友人に、仏さまとなっておられる亡き方はたらきが届いているからこそ、友人の両手が合わさったのではないのでしょうか。阿弥陀さまはこの私に對して、死んだらしまいじゃあない、お浄土へ行き、仏として生まれ、残された人達をお浄土へ導くはたらきとなっていくのだよと

誓って下さいました。だとすれば、そのことを聞き受け、手を合わせ、お念仏申す姿がそのまま、先立った方が仏となって私とご一緒にして下さっている姿です。

幼い頃に起こった問い、お坊さんになりたてのときに聞かれて困った問い。「人は死んだらどうなるのか。あの方は向こうで元気にやっているのか」。その問いに對し、今ならこのように答えさせて頂けるのではないか。

ご一緒に手を合わせ、南無阿弥陀仏と申してみよう。「なんなんだぶ、なんなんだぶ」。ほらここに、私の両手を合わせさせるはたらきが届いていますね。手を合わせお念仏申す姿が、先立った方が阿弥陀さまと共に、私の上で大忙しに大忙し、大活躍してくれている証なんですよって。

(伊丹市下河原・浄源寺) 2月16日の鷲森別院常例法座の法話から

手を合わせる今、亡き方とご一緒

な家族や友人を失って、幼い頃のこの問いにもう一度直面することになります。

と聞かせていただきます。そのお浄土とは無量光明土といわれます。無量光明土

いうことは、阿弥陀さまや先立って仏となった方が今ここにいる私のもとに届い